

圏域	地区	テーマ	取組の内容・成果 (途中経過を含む)	取組の課題 (途中経過を含む)	今後の取組に向けて 協力をもらいたいこと
吉野	吉野東	歩いて行ける場所に 楽しんで参加できる 行事も増えるとい い。	<p>【内容】 (第1回) ●地図に社会資源を見える化し、現状の共有を図る。 ●取組めそうなこと（誰がを含む）の意見交換。 ●キーワードとして<集まり・茶話会></p> <p>(第2回) ●具体的な取組について意見交換。</p> <p>【成果】 (第1回) ●分科会終了後に保健センターの保健師が地域住民団体へ会議内容を情報提供し、該当圏域の課題への取組の方向性と一致する。 ●また、参加者同士が圏域内で団体同士の交流を深めた。</p> <p>(第2回) ●参加者より、取組の実現に向けて様々な視点の意見を確認。 ●最終的に『一度やってみないと分からない』という合意に至る。 ●実施してみる方向性を共有。 ※地域住民団体が主体となり、社会福祉法人の協力により2/27(木)に第1回の新たな取組を実施（実行）予定。</p>	<p>■送迎（車、保険/人員、空き車両/あいバス）の担い手等 ■低料金の会費とするための財源の確保（お茶代、勉強会をする際の謝金等） ■対象者へのアプローチ ⇒継続させるために施設周辺の6町内会へ取組の理解を図る。 ■開催頻度の検討 ■取組を継続していくための担い手確保 ⇒開催場所としては、特老睦園の協力がある。 ⇒買い物協力者としては、セブンイレブン移動販売車、野菜売り車が確保できている。 ■交流の深化を図る。 ⇒開催場所がサ高住/小規模多機能がある4階であり、入居者と地域との交流や地域住民の理解促進を図る場としても活用したい。 ⇒施設入居による地域との関係性の希薄化の解消及び地域住民の理解を図る取組に繋げていきたい。</p>	<p>(移動支援) ◆住民があいバスを活用（に慣れる）ためのサポートしてくれる人 ◆車の提供 ◆車の運転をしてくれる人 ◆高齢ドライバーの安全運転のための支援体制</p> <p>(買物支援) ◆移動販売をしてくれる企業/小売り事業者</p> <p>(担い手) ◆地域住民で協力してくれる人や情報</p> <p>(活動資金) ◆活動のための資金の確保 ⇒様々な視点（助成金・補助金/会費制/収益事業/企業協賛等）からの知恵をいただきたい。</p>
伊敷台	玉里 小野	伊敷台圏域における チームオレンジ設立 に向けての意見交換	<p>【内容】 ●地域ケア推進会議内で絞られた「認知症」「集いの場」「孤立・見守り」といった地域課題を解決する手段として、伊敷台圏域内においてチームオレンジを設立することを目的として開催。 ●チームオレンジの内容やチーム員、活動拠点等について協議。</p> <p>【成果】 ●今年度内にチームオレンジの設立までには至らなかったが、認知症の方を地域で支えて行くことの重要性・必要性について、参加者全員で認識・共有することができた。 ●また、新たな課題として既存の団体の把握・活用・周知や、見守りメイトの繋がりなど、地域に住む方々が実際に感じている課題について確認することができ、今後の方向性について明確にすることができた。</p>	<p>■既存の集まり（サロンや認知症カフェ等）の把握や活用、どのような地域にどういった集まりがあるのかを、まずは把握していく必要がある。 ■チームオレンジ設立にあたり、見守りメイト登録者は多数いるが、見守りメイト同士のつながりがいないため、つなぐ手段や方法等について検討をしていく必要がある。 ■チームオレンジが地域にもたらす効果や、認知症の方々の生活への期待される影響について、どのように周知していくか。</p>	<p>(社会資源) ◆様々な団体において作成しているリストやマップ等の提供</p> <p>(周知) ◆チームオレンジの周知に向けた住民並びに地域の団体への広報</p>

圏域	地区	テーマ	取組の内容・成果 (途中経過を含む)	取組の課題 (途中経過を含む)	今後の取組に向けて 協力をもらいたいこと
西伊敷	花野光ヶ丘	チームオレンジ設立 について	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●チームオレンジへの協力を得るために、花野小学校区の見守りメイトに向けて、チームオレンジについて説明を実施。参加・協力できる方を募った。 ●花野小学校区の民生委員に向けて、チームオレンジの概要や設立に向けての状況を説明。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●チームオレンジへの活動に参加・協力できる見守りメイトを確保できたと共に、見守りメイトの活躍の場を広げることができた。 ●チームオレンジについて、民生委員の理解を得ることができた。また、地域を把握している民生委員からの視点で、課題と課題に対する対応策について意見をいただくことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■花野光ヶ丘は坂が多い地域のため、チームオレンジ開催場所まで行く手段に困る場合がある。 ■チームオレンジを地域に向けて、どのように周知していくか。男性参加者をどのように募っていくか。 	<p>(周知)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆チームオレンジについての地域住民への周知広報。 <p>(移動支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆移動支援（参加支援）
吉田	牟礼岡	チームオレンジ設立 について	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●7月の見守りメイト連絡会時、牟礼岡のメイト数名でチームオレンジ設立の気運が高まる。 ●その件を9月の地域ケア推進会議で報告し、設立に向けた分科会議を開催していくこと報告 ●10月、第1回分科会議でメイトも含めた牟礼岡地区の支援関係者と開設に向けた協議 ●11月、第2回分科会議はメイトのみで具体的な開設に向けた協議 ●12月、設立前のフォローアップ研修を牟礼岡で開催 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1月9日、第1回「チームオレンジむれがおか」開催。1月28日の地域ケア推進会議で結果報告 	<ul style="list-style-type: none"> ■チームオレンジに対する地域の理解が充分でないこと ■牟礼岡地区以外の見守りメイトの不足 	<p>(周知)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆「見守りメイト養成講座」や「支えあい活動従事者研修会」等への地域の方への参加促進 ◆各種ボランティア講座のチラシの配布 ◆各種ボランティア講座の案内や紹介 ◆各種ボランティア講座の広報機会の場

圏域	地区	テーマ	取組の内容・成果 (途中経過を含む)	取組の課題 (途中経過を含む)	今後の取組に向けて 協力をもらいたいこと
郡山	郡山町	郡山地区の移動支援 について	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●移動支援について、民生委員、自治会長と意見交換。 ●生活支援コーディネーターより支え合い活動団体の事例紹介を行い、具体的な活動について意見交換。 ●支え合い活動についての周知方法についても検討。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●移動における支え合い活動について、自治会独自で体制を作る案など住民視点の具体的な意見が得られた。 ●地域の代表者だけでなく、より小さな団体に支え合い活動について周知することができ、出前講座の依頼にも繋がった。 	<p>■移動支援に関する支え合い活動を周知する事で、活動に興味や理解を得ることはできたが、具体的に活動する団体や、地域、担い手に関してはマッチングや検討を重ねていく必要がある。</p> <p>■支え合い活動や支え合い団体についてさらなる周知が必要である。</p> <p>⇒地域の代表者に各種団体の会合等講話する場の情報の提供を依頼</p>	<p>(移動支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆車の提供 ◆車の運転をしてくれる人 ◆高齢ドライバーの支援をする体制 ◆車両の維持や管理費用 <p>(周知)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆小さな団体や地域住民への支え合い活動や出前講座などの周知・広報
上町	大竜 名山 清水	<p>①高齢者を支える関係機関のネットワーク作り</p> <p>②災害時の新たな避難先の問題</p> <p>③お達者クラブの送迎問題</p> <p>④チームオレンジ設立</p> <p>⑤当事者意識を高める取り組み方法</p>	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●校区単位で地域課題の共有と検討を行うこととし、圏域内の3校区を対象とした。 <p>【成果】</p> <p>(大竜) 同じ町内のグループホーム同士が災害時に連携し、以下の2つが決まった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「下田温泉の郷」では避難先の確保 ●「めぐみの丘坂元」では毛布などの物資や駐車場の提供 <p>(名山) 「チームオレンジすまいるカフェ」や「易居町フレイル予防体操」では、集まりが持続できるような支援を求めていることを把握。</p> <p>(清水) お達者クラブ等の送迎について、サービス事業所が業務の中で行うことは難しいため、講話と組み合わせたり地域貢献の一つとして当てはめたりすることで対応することができないかということを検討していただくことになった。</p>	<p>(大竜)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■災害の規模や種類によって広域災害時の支援と地域限定の支援を分けて考えた方が実行し易いことが整理できた。 ■横の繋がりを持ち続けて地域限定（がけ崩れ等）の支援体制を整えるという方向性が示された。 <p>(名山)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■マンネリ化や場所の問題（公民館の老朽化等） ■支援者のマンパワー不足により集まる場の持続が危ぶまれている。 <p>(清水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■次回の民生委員の改選で7～8名が定年になる予定。 	<p>(集いの場)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆集いの場の提供 ◆集いの場をコーディネートする人

圏域	地区	テーマ	取組の内容・成果 (途中経過を含む)	取組の課題 (途中経過を含む)	今後の取組に向けて 協力をもらいたいこと
中央	城南	①認知症の周知方法について ②チームオレンジについて	<p>【内容】 (認知症の周知) ●認知症について理解を深めたいと民生委員より意見があり、城南地区にて認知症地域支援推進員による講話をモデル的に開催。 ●開催方法や講話の内容などについて協議することとなった。</p> <p>(チームオレンジ) ●第1回地域ケア推進会議にてチームオレンジについて説明。 ●城南地区でモデルケースを検討</p> <p>【成果】 (認知症の周知) ●城南地区の民児協定例会にて、認知症地域支援推進員と包括中央で城南地区の実情を踏まえた認知症についての勉強会を実施。</p> <p>(チームオレンジ) ●他圏域で開催されているチームオレンジの進捗状況を共有。 ●中央圏域にも設置の必要性があることを共有できた。</p>	<p>(認知症の周知) ■勉強会については城南地区の民生委員は仕事を掛け持ちしている方が多いため長丁場だと参加が難しいため、短い時間で数回に分けて開催することで参加しやすいとの意見があった。</p> <p>(チームオレンジ) ■チームオレンジの設置について意見交換し、現在、担い手候補の事業所に対してチームオレンジコーディネーターと連携し対応中。</p>	<p>(集いの場) ◆集いの場の提供。 ◆集いの場を管理する人。 ◆集いの場の認知症や健康等に対して指導・助言していただける人。 ◆集いの場について周知広報してくれる人。 ◆集いの場の継続を支援してくれる人。</p>
城西	常盤	認知症の方も安心して暮らせるまちづくりについて	<p>【内容】 ●住民グループと事業所グループに分かれて地域課題と課題解決のために必要な活動を抽出し、全体で意見交換。 ●抽出された課題、活動について、実行の難易度や効果の出やすさを考慮して優先度を検討。 ●優先度の高い活動について具体的に取り組むことや役割分担、期間を検討。</p> <p>【成果】 ●焦点化したことで地域の課題を具体的に抽出できた。 ●地域で求められていることとできることの整理ができ、関係者で共通認識を持つことができた。 ●今後の活動に向けての具体的な役割等を確認することができた。</p>	<p>■地域の小学校に児童と保護者を対象に認知症サポーター養成講座を実施できないか相談。 ■地域の高齢者の集まり等の場で認知症サポーター養成講座の実施を検討。 ■夏休みに地域の児童クラブ等で小中学生を対象に認知症サポーター養成講座の実施を検討。 ■介護事業所等と連携し、多世代が認知症の方と交流する機会づくりを検討。チームオレンジの活用や就業している世代が親子で参加できるよう土日開催を検討。</p>	<p>(多世代が認知症について学べる場) ◆学べる場や機会の提供 ◆学べる場を調整する人 ◆学べる場の情報を発信する人 ◆子どもたちに認知症のことを知ってもらうための活動ができる団体や企業</p>

圏域	地区	テーマ	取組の内容・成果 (途中経過を含む)	取組の課題 (途中経過を含む)	今後の取組に向けて 協力をもらいたいこと
桜島	桜峰校区コミュニティ内 (松浦、二俣)	地域現状把握とこれから取り組める事について。	<p>【内容】 桜島の桜峰校区コミュニティ協議会内の2つの地域別に、現状とこれから取り組めそうなことについて住民代表等と意見交換。 (第1回) ●松浦地区→地域内情報共有が難しく、様々なイベントも参加者を募るための企画や仕掛けが重要。 ●地域内の気になる高齢者状況確認は、民生委員が直接訪問等で対応していた。 (第2回) ●二俣地区→地域高齢者の見守りは民生委員が中心に行っている。 ●令和元年に当時の公民館長が、住民向けに「さりげない住民同士の見守り活動」を提示したが形骸化している。</p> <p>【成果】 ●世帯数や住民数も多くない2つの地区において、地域高齢者等の状況把握は民生委員が担っている現状を把握。 ●皆が出来るだけ負担を感じない持続可能な地域支援体制作りの必要性を共有。 ●まずは各住民が近隣3~4人程度から気に掛ける事を行い、気になる状況があれば民生委員や公民館長に情報をあげる。 ●そこから専門的な介入が必要と考えられる案件は、保険者や包括センター等に情報提供する仕組み作りをしていくこととなった。</p>	<p>■次年度以降の対象区域や開催方法について検討する必要がある（住民が多い地域での開催方法の工夫など）</p>	<p>(担い手) ◆地域活動の担い手の確保</p>

圏域	地区	テーマ	取組の内容・成果 (途中経過を含む)	取組の課題 (途中経過を含む)	今後の取組に向けて 協力をもらいたいこと
松元	石谷校区	認知症に対する地域の理解を深めるためには	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●認知症の人の支援の現状（強みと弱み）を確認する ●地域住民ができそうなこと、地域で取り組めそうなことを考える <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●若い世代を中心に転入者が増えている現状を踏まえ、若い世代へどのように働きかけていくかを検討。 ●子どもたちに認知症についての学びや触れ合う機会をつくり、子どもを通じて親世代の関心につなげていく等の具体策が提案された。 ●介護している家族を支えるネットワークとして、気軽に相談できる場や関係づくりが必要であると地域の関係者間で確認できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■キッズサポーター養成講座と高齢者との触れ合い体験学習をセットにするなど、子供が認知症についての知識だけでなく体験として学びを深められる機会の工夫。 ■高齢者との触れ合いを題材にした児童の感想文等を地域のイベントで掲示し、親世代にも共感してもらう。 ■地域のイベントで親子で参加できるブースの企画。認知症に特化せず、参加しやすい柔らかなネーミングの工夫。 ■興味関心がある人への認知症サポーター養成講座や見守りメイト養成講座の勧奨。 ■親しい近隣住民に家族の連絡先を伝えておくなど、普段から近隣との関係づくりを大事にする。 	<p>(認知症についての周知広報)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆子供から大人まで、認知症について継続的に学べる機会の提供
鴨池南	宇宿	宇宿校区の住民の方が気軽に集まれる場、認知症当事者の活躍できる場と認知症の理解が深まる場づくりとして、チームオレンジを活用する。	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●宇宿地区でチームオレンジを行うことや地域に与える効果を共有。 ●チームオレンジの活動拠点や活動内容と活動計画、周知方法について、チーム員、宇宿地区商工会、町づくり協議会、社会福祉協議会の方と協議。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●チームオレンジに参加することで、その意義について理解が深まり、認知症ケアに対する意識の変化を生み出せる効果があることを共有できた。 ●地域の関係団体においてもできる範囲で広報をするなど連携できることを確認できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■認知症当事者の参加につなげるための工夫や周知広報が必要。 ■広報する側もチームオレンジを理解しておく必要がある。 ■要介護認定者への関りのある居宅介護支援事業所への広報など、これまで広報を行っていない事業所へのアプローチが必要。 ■宇宿校区以外でも認知症に関わる地域課題解決に向けた取り組みとして、チームオレンジの設立希望の校区がある。 	<p>(チームオレンジの広報)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆のぼり旗の掲示 ◆開催案内の掲示 ◆開催のチラシの回覧

圏域	地区	テーマ	取組の内容・成果 (途中経過を含む)	取組の課題 (途中経過を含む)	今後の取組に向けて 協力をもらいたいこと
谷山北	星ヶ峯	認知症になっても暮らしやすい地域づくり ①認知症の理解促進 ②つながりづくり	【内容】 (認知症の理解促進) ●行方不明高齢者が複数出ていることなどから、地域で認知症の理解が必要であるという認識を持ってもらい、対策を検討。 (つながりづくり) ●集いの場や見守り活動などの活動をした方々の情報把握と活動への支援の助言、検討。 【成果】 (認知症の理解促進) ●認知症の理解のため講話を小地域で次年度以降計画していく共有する。 (つながりづくり) ●チームオレンジの設立につながる。	■多世代が認知症を理解するための方法の工夫。 ■地域の介護施設や企業、商店街などを巻き込んだ地域づくり ■開催についての伝達方法の工夫 ■集会や買い物などに行く交通手段の検討 ■地域の介護施設等ができることと地域の困りごとのマッチング	(担い手) ◆移動手段を担ってくれる人 ◆地域のイベント等に協力してくれる団体、人 ◆子供たちに認知症に興味をもってもらえそうな活動ができる人、団体 ◆地域の情報を発信する人
谷山中央	①西谷山 ②圏域全体	①地域における認知症支援 ②意思決定支援、身寄り問題	【内容】 (西谷山：地域における認知症支援) ●「チームオレンジ西谷山」の設立及び活動開始に関わった。また様々な機会を生かし、同団体の広報周知に努めた。 (圏域全体：意思決定支援、身寄り問題) ●圏域内の居宅介護支援事業所を対象として、外部講師を招き基調講演、意見交換を行った。 【成果】 (西谷山：地域における認知症支援) ●住民自身の主体性に立脚する活動の誕生に寄与することができた。 ●また、その取り組みを横展開することで、他地域における活動の延伸に繋がることを期待される。 (圏域全体：意思決定支援、身寄り問題) ●地域包括ケアシステムにおいて重要な役割を担う居宅介護支援事業所が抱える課題について共有理解することができた。 ●また、成年後見制度や地域の力を取り入れた支援の展開について理解促進を図ることができた。	(西谷山：地域における認知症支援) ■他地域での取組を推進するためには、地域の実情に応じた様々な課題（代表者、会場、本人参加の確保 等）がある。 ■チームオレンジコーディネーターと連携し、様々な活動支援を展開することが求められる。 ■チームオレンジ西谷山の活動継続について、継続的に関わる必要がある。 (圏域全体：意思決定支援、身寄り問題) ■居宅介護支援事業所を取り巻く共通の課題として、医療機関との連携体制構築がある。 ■他の専門職、団体も巻き込んだ取組が求められる。	(ネットワークの構築) ◆意思決定支援、見守りに関する圏域内の具体的なネットワークの構築（参加）

圏域	地区	テーマ	取組の内容・成果 (途中経過を含む)	取組の課題 (途中経過を含む)	今後の取組に向けて 協力をもらいたいこと
谷山南	錦江台校区	錦江台校区での認知症、高齢者の方の見守り等の支援体制の構築について	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域課題と課題解決のために必要な活動、アイデアの抽出。 ●抽出された課題、活動について、実行の難易や効果の高さを考慮して優先度を検討。 ●優先度の高い活動を実行に移すために、具体的に「取り組むこと」「役割分担」「期間」を検討。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域を絞ったため、地域の課題について具体的に抽出することができた。 ●地域で「求められていること」「出来ること」の整理ができ、関係者で共有できた。 ●今後、活動に向けての具体的な行動を確認することができた。 ●また、まちづくり協議会で検討を続けていく事への機運醸成を図ることができた。 	<p>(今後について)</p> <p>まちづくり協議会の福祉部会で引き続き、地域で必要な互助活動について検討することとなる。</p> <p>(課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■地域での活動を実施するために具体的な行動まで検討できたが、今後も伴走的な支援が必要。 ■地域住民だけではなく、法人や企業との協働があれば、地域での活動を行いやすい。 	<p>(話し合いの場づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆地域活動についての検討を継続していくための伴走支援をしてくれる人
喜入	一倉校区 生見校区	認知症になっても安心して暮らせる喜入にしよう	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●地域と医療介護サービス事業所、警察と連携し、喜入セブンの7つの活動計画の一つである「認知症ひとり歩き模擬訓練」で認知症理解、声掛け・警察通報訓練を行っている。 ●R4年度は瀬々串校区、R5年度は前之浜校区で実施済み。 ●令和6年度は実施に向けて第1～3回分科会議で事前打ち合わせ、第4回分科会議で結果報告会を行い、アンケート結果の共有や意見を聴取した。 <p>①医療介護事業所対象。 ②一倉校区地域住民、小学校、医療介護事業所対象。 ③生見校区地域住民、医療介護事業所対象。 ④一倉、生見校区地域住民、医療介護事業所、警察対象。</p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●認知症や声掛け、警察通報の理解から、地域の見守る力が上がった。 ●住民同士のつながりの重要性が分かった。 ●地域住民と医療・介護事業所間の顔の見える関係づくりができた。 ●医療・介護事業所の連携強化が図られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■実施した4校区ともに90%以上、平均96%が訓練継続の意向があり、どの様に継続していくか。 ■認知症ひとり歩き模擬訓練が未実施の校区でどのように実施するか。 ■住民の参加は60代以上が82%を占め、多世代での参加をどう促すか。 	<p>(多世代へのアプローチ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆若い世代の見守り活動への参加 ◆小学生やその親の世代への働きかけ